

# 1 これからの環境

## 1-1 日本一のエコタウンをめざして

江戸川区は江戸川や荒川などの川や海に囲まれ、数多くの公園を有する豊かな水と緑が調和した都市です。反面、陸地面積の約7割が満潮時の海面よりも低い「海拔ゼロメートル地帯」で、地球温暖化による海面上昇や、気候変動による集中豪雨などの危機を真っ先に受ける地域でもあります。

したがって、地球温暖化問題を自らの問題として捉え、これまで培ってきた「地域力」「豊かな水と緑」「活力のあるまち」という本区の特性を生かし、積極的に対策を進めなければなりません。

現在、地球温暖化対策として区をあげて推進している「もったいない運動えどがわ」については、平成26年度の区民世論調査で「省エネ・省資源を意識した行動（15項目）」についてお聞きしたところ、99%の区民の方がいずれかの行動をしていると回答しており、日常の中に浸透しています。今後もこの運動を拡大するとともに、継続していくことで日本一のエコタウンにつながります。これからも温暖化対策の先進的な取り組みを江戸川区から発信し、未来の人々にこの恵み豊かな地球環境を引き継ぎましょう。

### 「もったいない運動えどがわ」

「もったいない」の心で暮らしを見つめ直し、省エネ・省資源・ごみ減量などに取り組むことを通じ、地球温暖化の防止や循環型社会づくりに貢献する、区内に住む人、働く人、誰もが参加できる運動です。

## エコタウンえどがわ推進計画

平成20年2月に地域をあげて地球温暖化対策を進めるため、「エコタウンえどがわ推進計画」（地域エネルギービジョン）を策定しました。

この計画は、地域として目指すべき温室効果ガスの削減目標を掲げ、その達成に向けて区民、事業者、区が一体となって具体的な取り組みを進めるものです。この計画を柱として「もったいない運動えどがわ」の実践をはじめ、一人ひとりが環境に配慮して暮らすまちの実現を目指します。

## 江戸川区のCO<sub>2</sub>削減目標

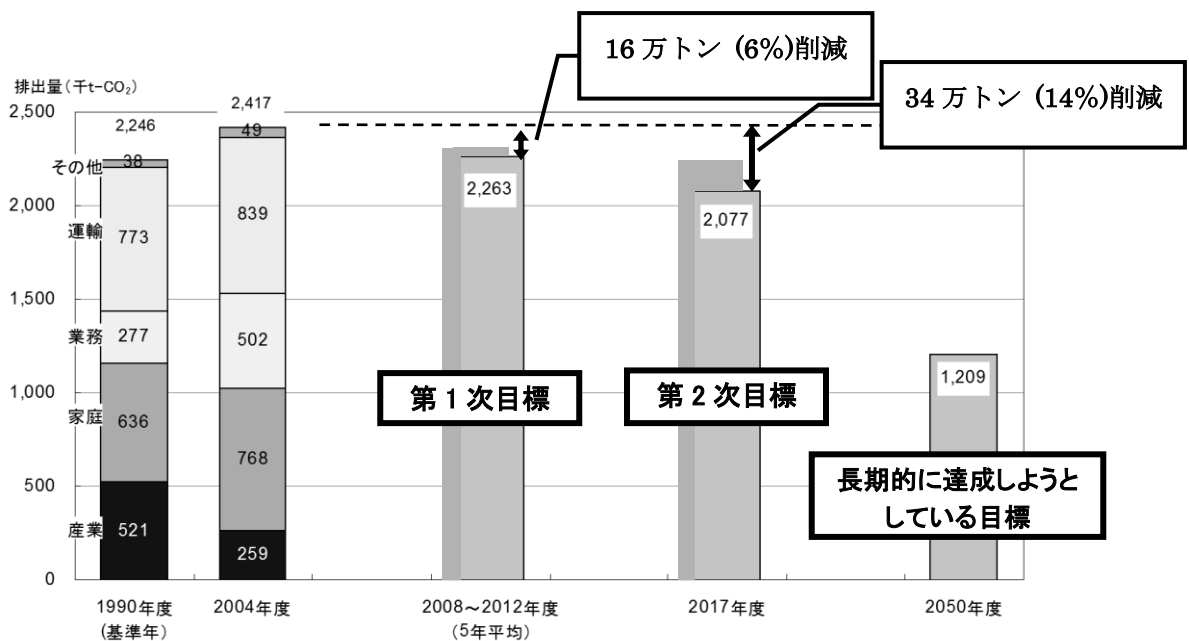
### ● 第1次目標

2008（平成20）～2012（平成24）年度までの5年間で  
エネルギー起源二酸化炭素を

**平均して年間16万トン(2004年度比6%)削減** します。

### ● 第2次目標

2017（平成29）年度にエネルギー起源二酸化炭素を  
**年間34万トン(2004年度比14%)削減** します。



ここでは「日本一のエコタウン」を目指すにあたり、区の温室効果ガスの削減目標を次のように設定しています。

#### 【2012（平成24）年度までの第1次目標】

- ① 京都議定書の6%削減目標は温室効果ガス全体の数字ですが、区は区民・事業者が削減できるエネルギー起源二酸化炭素削減率（+0.8%）を目標とします。
- ② この目標設定の考え方から、第1次目標のエネルギー起源二酸化炭素排出量は、基準年（1990年・平成2年）の排出量224万6千トンに+0.8%を乗じた226万3千トンになります。

- ③この第1次目標の226万3千トンとは目標設定時に算定できた最新の年度である2004(平成16)年度(241万7千トン)比で6%の削減になります。  
※2008(平成20)～2012(平成24)年度までの二酸化炭素排出量は年平均で8.6%の削減となり、目標である年平均6%削減を達成することが出来ました。

【2017(平成29)年度までの第2次目標】

- ① 2050(平成62)年度までに現状比の50%削減するために必要と考えられる、2017(平成29)年度時点の排出量を207万7千トンとします。  
これは2004(平成16)年度比で14%の削減になります。

【二酸化炭素排出量】

区内の2013(平成25)年度の二酸化炭素排出量は207万8千トンです。その内訳は民生部門120万9千トン、運輸部門55万4千トン、産業部門23万5千トン、廃棄物部門8万1千トンになっています。

これは2004(平成16)年度比で14%の削減であり、このままのペースを維持できれば第2次目標は達成できます。

## エコタウンえどがわ推進本部

「エコタウンえどがわ推進本部」は区長を本部長とし、本部員は地域選出の区民や環境をよくする各地区協議会、産業界代表、学校・PTA関係者などにより構成され、「エコタウンえどがわ推進計画」の目標を達成するため、取り組みの状況や将来のあり方などについて話し合い、取り組み方針を決定しています。平成27年度も本部会議が開催されました。

【会議の内容】

- 事務局より国や世界の動き、江戸川区の二酸化炭素排出量、水素エネルギーシンポジウム開催結果について報告及び説明。
- 東京ガス株式会社様より水素エネルギーの概要について説明をいただいた。
- 東京電力株式会社様、東京ガス株式会社様より電力自由化について説明をいただいた。
- 美し国づくり景観大賞のビデオを上映

## 広げよう「もったいない運動えどがわ」の輪

### 区民の取り組み

区内で排出される二酸化炭素の約3分の1は家庭からのものです。そのため、日本一のエコタウンは、区民一人ひとりが環境に配慮した暮らしを送ることで実現できます。本区では、「もったいない」の心とちょっとした工夫で、楽しく豊かな生活を保ちながら、省エネ生活を送る取り組みを推進しています。

「もったいない運動えどがわ」では1人1日1kgの二酸化炭素の削減を目指し、活動を進めています。目標が確認できる省エネチェックシートは、江戸川区のホームページや地域まつり等で入手できます。このシートを参考に、自分ができる省エネ行動を実践しましょう。

### 事業者の取り組み

区の二酸化炭素排出量の約20%は業務部門からのものです。平成22年度からは、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例が改正され、大規模事業所（22事業所）に二酸化炭素排出総量削減義務が課せられ、大規模事業者に対する削減の取り組みは今後一層進むこととなります。

一方、区内の大半を占める中小事業所は、同条例による二酸化炭素排出総量削減義務はないものの、削減された二酸化炭素を排出量取引制度に組み込むなど削減に対するインセンティブも整いつつあります。

また「もったいない運動えどがわ」の事業所版である「エコカンパニーえどがわ」は、江戸川区版環境マネジメント制度です。

多くの事業所がこの制度に登録し、様々な取り組みを実践しています。

## 家族・グループ・個人で参加

### 「もったいない運動えどがわ」に登録

家庭のなかには、省エネ・省資源・ごみ減量など身近に取り組める「もったいない」がたくさんあります。普段から意識して取り組んでいたり、これから取り組んでみたい「もったいない」を書いてえどがわエコセンターに登録します。これであなたも「エコファミリー」の一員です。



### 「省エネナビ」

江戸川区が区民向けに貸し出しを行っている省エネナビは、電化製品ごとに消費電力の計測ができます。

えどがわエコセンターの事業でも省エネナビの貸出を行っており、平成27年度は、7世帯の参加者が、取組みの成果を確認することができました。

省エネを推進するうえで取組みの「見える化」は重要です。今後も省エネナビの活用を広げ、家庭の取組みのサポートを行っていきます。



## 学校・保育園・すくすくスクールで参加

### 「グリーンプラン推進校」「学校版もったいない運動」

幼稚園、小中学校、すくすくスクールでは「給食は残しません」「水道を流しっぱなしにしません」など、日々「もったいない」に取り組んでいます。

特に環境学習に関心のある学校（園）については、「グリーンプラン推進校」として指定し、えどがわエコセンターが環境学習の支援をしています。

平成27年度は12校（園）がグリーンプラン推進校として環境学習に取り組み、累計で101校（園）となりました。また、「学校版もったいない運動」の活動は毎年6月の「環境フェア」でパネル展示などにより発表しています。



## お店や商店街で参加

### 「マイバッグキャンペーン」

商店街も「もったいない運動」に取り組んでいます。毎日多くのお客様が集まる商店街では、マイバッグを利用し、レジ袋を受け取らないという一人ひとりの取り組みが、ごみの減量化、地球温暖化防止に繋がります。

そこで、毎年6月（環境月間）と10月（3R推進月間）に各商店街やお店で「マイバッグキャンペーン」のポスターを掲示し、また、商店街のイベントなどでマイバッグ等のエコグッズを配布するなど、お客様への普及啓発を行っています。



## 事業所で参加

### 「エコカンパニーえどがわ」

中小零細な事業所が多い江戸川区の地域特性から、「ISO14001」や「エコアクション21」の認証を取得している事業所はごくわずかです。しかし江戸川区の二酸化炭素排出量を減らしていくためには、規模の大小を問わずすべての事業所が環境活動に取り組む必要があります。



こうしたことから生まれたのが、江戸川区版環境マネジメント制度「エコカンパニーえどがわ」です。工場だけではなく、スーパーマーケットやセシモニーホール、銭湯など業種にとらわれない多彩な事業所が参加・登録しています。従業員が進んで省エネやごみの減量に取り組むことは環境負荷の軽減以外に、経費削減にもなり、経営のプラスにつながっています。

## えどがわエコセンター

えどがわエコセンターは、地球環境への負荷を減らしながら、活力のある地域社会を創造することを目的に、区民、事業者、行政が協力して設立したNPO法人です。現在、区と連携して「もったいない運動えどがわ」の推進を始めとした、身近な省エネ・省資源・ごみ減量活動などに取り組んでいます。

「日本一のエコタウン」をめざすためには、「えどがわエコセンター」が核となり区民、地域、学校、事業者などと連携し様々な取り組みを拡大していくことが大切です。すべての区民がそれぞれの立場ごとに取り組みやすいような仕組みを用意しています。

※「えどがわエコセンター」の取り組みはP66～に詳しく記載しています。

## 私たちもエコしています。

平成18年度からスタートした「もったいない運動えどがわ」の登録者数は平成28年4月に11万人に達しています。

これらの登録者は区内のあらゆる所で、身近な省エネ・省資源・ごみ減量に取り組んでいます。

また、効果的な取り組みは「もったいない運動えどがわ区長賞」として表彰しています。

### 平成28年度もったいない運動えどがわ区長賞受賞者

- 鹿野 義弘 「みどりのカーテンで地球温暖化を防止」
- 佐々木 徹也 「地道に継続して節電 家族で省エネに取り組む」
- 江戸川ムジナモ保存会 「ムジナモを絶滅から守るために！」
- 小松川第二小学校 「にここ農園が育む自然環境への関心」
- 上一色中学校 「様々な視点から学ぶ環境学習」
- 東工・バレックス株式会社 「社会的責任として環境保全への取り組みを」

### 事業所としての区の取り組み

区は平成13年1月に「江戸川区環境行動計画」を策定し、実施する事務事業に伴う温室効果ガスの削減と環境負荷の軽減に取り組んできました。

平成18年度にはエネルギー消費量の多い大規模15施設にESCO事業の手法を用いて、施設の改修や機器の改修・更新を行いました。

平成21年にエネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）・地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）・都民の健康と安全を確保する環境に関する条例（環境確保条例）が改定され、区は一事業所として建物のエネルギー使用量について削減計画の策定や報告を行っています。

このような社会背景や取り組みの実績を踏まえ、平成25年4月第四次環境行動計画を策定しました。

#### ○ 江戸川区第四次環境行動計画の概要

期間：平成25年度から27年度の3年間で2年間延長し、平成29年度までの5年間

目標：電気・都市ガス・庁用車燃料・上水道水の各使用量とコピー用紙購入量・廃棄物排出量の6項目について前年度比1%削減



対象：区外施設も含めた全施設（エネルギーの使用の合理化等に関する法律、地球温暖化対策の推進に関する法律、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例に対応）

平成27年度 江戸川区第四次環境行動計画の結果

	27年度※3	26年度	26年度との差	26年度比(%)
電気使用量（千kWh）	73,362	73,104	258	0.4
都市ガス使用量（千m <sup>3</sup> ）	3,943	4,008	△65	△1.6
庁用車燃料使用量（kL）※1	265	267	△2	△0.8
上水道水使用量（千m <sup>3</sup> ）	1,425	1,450	△25	△1.7
コピー用紙購入量(千枚) ※2	88,248	90,365	△2,117	△2.3
廃棄物排出量（トン）	2,979	3,004	△25	△0.8

※1 発熱量からガソリンに換算。 ※2 A4サイズに換算。

※3 速報値。

（参考）第三次までの環境行動計画の各目標と結果（結果の囲みは達成を示す）

	第一次計画 (H12~16)		第二次計画 (H17~19)		第三次計画 (H20~24)		第四次計画 (H25~29)
	目標	結果	目標	結果	目標	結果	目標
温室効果ガス 排出量 (CO <sub>2</sub> 換算-トン)	35,460	38,222	38,000	38,070	38,000	36,787	数値目標無
電気使用量 (千kWh)	69,066	74,706	73,000	75,346	75,000	72,933	前年度比 △1%
都市ガス使用量 (千m <sup>3</sup> )	4,239	4,286	4,400	4,234	4,200	4,137	前年度比 △1%
庁用車燃料使用量 (ガソリン換算-kL)	153	445	433	349	355	269	前年度比 △1%
上水道使用量 (千m <sup>3</sup> )	1,882	1,789	1,770	1,610	1,600	1,523	前年度比 △1%
コピー用紙購入量 (A4換算-千枚)	21,758	23,145	23,000	25,521	22,500	26,900	前年度比 △1%
廃棄物排出量 (トン)	119	77	77	84.9	80	91	前年度比 △1%